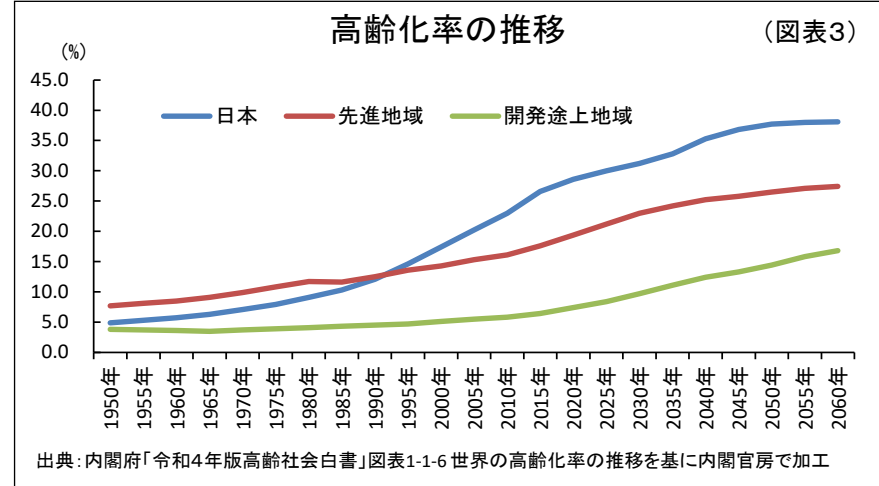
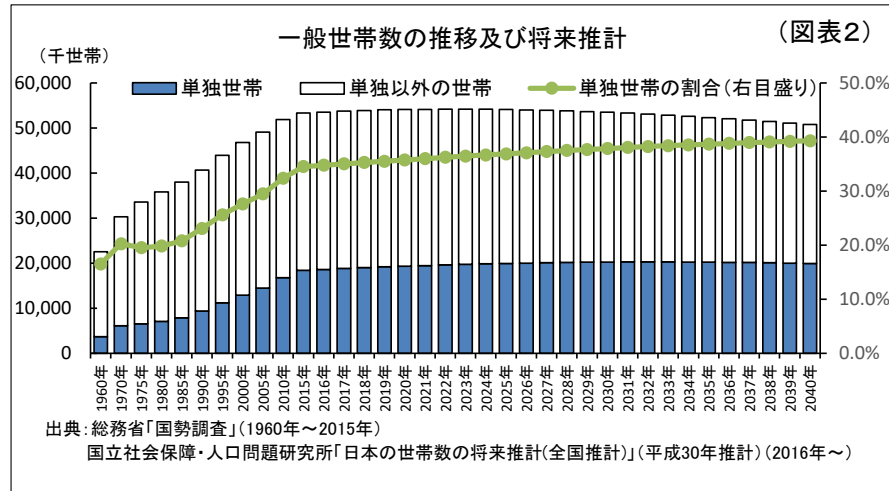
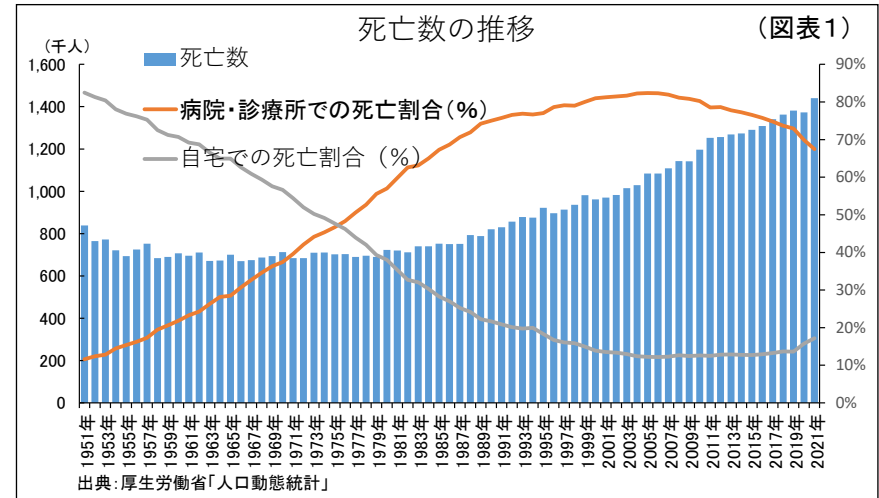


「孤独死・孤立死」を把握することの意義について

我が国の死亡数、単独世帯等に関するデータの動き

- 我が国全体の死亡数は年々増加しており、近年では自宅での死亡割合が増加傾向(図表1)
- 単独世帯数は2020年で36%を占めており、単独世帯数は今後とも高い割合で推移(図表2)
- 高齢化率は2020年で28.6%となっており、今後とも上昇傾向(図表3)



○「孤独死・孤立死」の実態を把握することの重要性

- ・基礎資料…関連諸施策の基礎資料を得る上で実態把握は重要
- ・啓発活動…関連諸施策への国民の理解・協力を得るための周知・啓発活動への利用
- ・学術利用…「孤独死・孤立死」に関する学術研究の進展

○「孤独死・孤立死」の実態把握の必要性

次の点からも備えが必要

・尊厳の問題

死後の発見が遅れ、腐敗した状態で発見されることに尊厳がある死といえるか。

・社会のあり方としての問題

一人で亡くなる方は、経済的に厳しい状況に陥っている、家族や友人とのつながりを失っているなどの傾向があり、個人の選択だけでは片づけられない。

・死因の究明の問題

発見が遅れ、死後経過日数が長くなることにより、死因が不明瞭という事例の増加につながる。

○「孤独死・孤立死」への対策の必要性

・不動産等の経済的価値の下落の問題

状況によっては事故物件（注）の扱いとされてしまい資産価値等が下がってしまう。

注）「自然死や不慮の事故死以外の死」や「特殊清掃が必要になる死」が発生した物件

・死後手続の関係

自治体としては亡くなったあとの手続が一番困っている。

※第1回、第2回WGにおける主な意見を整理したもの